

「第46回道路と交通論文賞奨励賞」講評

*経済社会部門 論文選考委員長 河野 達仁

第46回道路と交通論文賞 経済社会部門の選考過程と結果を以下に報告させていただきます。道路と交通論文賞は「道路と交通に係る新進気鋭の研究者の育成および実務者による研究の奨励に資すること」を目的とした賞である。そこで選考委員会では今回の選考対象論文に対して、その観点から選考対象論文の検討を最初におこなった。その結果、植 氏による「高速道路の開通に対応した沿線地域の取組みの現状」の1編のみを選考対象とし、厳正な審査を経て奨励賞授与を決定した。

本論文は、高速道路開通に対する沿道地域における道路利活用につながる積極的取組みとその効果について、関連する農業、工業、商業関係の経済団体、観光協会、自治体へのアンケートを通じて分析したものである。対象地域は372市町村にわたりアンケート配布数は2,000部を超える大規模調査である。分析の結果、多くの地域で、工業・物流の誘致や観光PRといった取組みが高速道路開通のストック効果を引き出す重要な要因であったことが確認されている。一方、負の開通効果の打開に至っていない取組みもあり、地元の対応が開通効果に影響を与えていることが確認されている。

高速道路の開通効果に関する定量分析は国内外に膨大に存在する。それらは主に整備と便益の因果を把握する統計分析を用いて行われている。本研究はそれらの研究をレビューするとともに、従来研究では統計的分析のみで確認されていた効果について、関連する団体へのアンケートによりその具体的効果発現プロセスの確認を行っている点に独創性がある。そのうえ、本研究の分析結果が従来研究の結果をサポートしており、従来の研究と本研究が補完関係にあるといえる。このような独創性と有用性が審査委員会で高く評価された。一方で、量的整備効果が有無のみで整理されている点や検証する仮説の提示がなく政策的インプリケーションの明確化に欠けるといった点などの改善可能点の指摘があった。最終的に、これらの議論をもとに、本論文への奨励賞授与を選考委員全員一致にて決定した。本受賞が植 氏の研究のさらなる発展につながることを大変期待している。

「第46回道路と交通論文賞」講評

＊技術部門 論文選考委員長 中村 英樹

第46回道路と交通論文賞（技術部門）については、令和8年度に掲載された8編の論文を対象として、選考委員会において慎重に審査を行った。その結果、柳原正実氏による「高速道路におけるドライバーの休憩行動を考慮したSA/PAの立地評価手法の構築」を授賞論文として選定した。本論文は、高速道路休憩施設の立地をドライバーの休憩行動に基づいて評価する手法を提示したものであり、研究論文としての新規性、独創性、実用性、完成度の観点から総合的に高く評価された。

近年、高速道路では休憩施設間隔の偏在や駐車スペースの混雑など、利用者の利便性に関わる課題が指摘されている。こうした状況を踏まえ、本研究は休憩行動そのものを分析対象とし、立地の妥当性を定量的に評価しようとした点に特徴がある。特に、WEBアンケートによるSPデータを用い、ロジットモデルにより休憩施設選択行動をモデル化した点は、行動分析としての説得力を高めている。また、時間経過に伴う休憩欲求の変化を「不満度」として定式化した点は、ドライバーの内在的な行動要因を定量的に表現したものとして評価できる。

さらに、本手法は既存施設の評価だけでなく、新設施設の効果推定にも適用できる点で実務的な有用性が高い。高速道路整備計画や休憩施設整備方針の検討において、利用者行動を踏まえた評価手法の必要性は高まっており、本研究はその一助となるものである。一方で、モデルにおける仮定やパラメータ設定については、地域特性や交通状況の違いを踏まえた検証の余地が残されている。また、ETCデータや交通量データを併用することで需要構造との関係をより精緻に把握でき、手法の妥当性や汎用性の向上が期待される。加えて、利用目的や施設サービス内容の違いを考慮した分析が加われば、より実態に即した評価モデルへ発展する可能性がある。

総じて、本論文は高速道路利用者の視点を重視した実践的研究として完成度が高く、道路交通分野における計画・評価手法の発展に寄与するものであると判断される。以上の理由から、本論文を本賞にふさわしいものとして選定した。